

2013年8月8日



2013年12月期 第2四半期 決算説明



内外トランスライン株式会社

銘柄コード 9384(東証二部)

1. 当社グループの業務フィールド



◆ 貨物輸送の区分

国際・国内区分

・ 国際物流

・ 国内物流

輸送手段

・ 船舶
(海上)

・ 航空機
(航空)

・ 鉄道・トラック
(陸上)

輸送手段の保有

・ 有 ⇒ 実輸送業者
 - 船会社
 - 航空会社
 - 鉄道会社
 - トラック会社

(代理店ビジネス)

・ 無 ⇒ 利用運送業者
 - フォワーダー -
NVOCC
 - 航空フォワーダー -

作業区分 / 作業内容

輸送

・ 幹線
 ・ 地域
 ・ コンテナ(トラック)単位
 ・ 混載

荷役

・ 仕分
 ・ 入出庫
 ・ コンテナ(トラック)積降

保管

梱包

・ 輸出仕様
 ・ 国内仕様

流通加工

・ 検品、検針
 ・ 補修
 ・ タグ付, 値札付

物流情報

・ カーゴトレース
 ・ 流通在庫

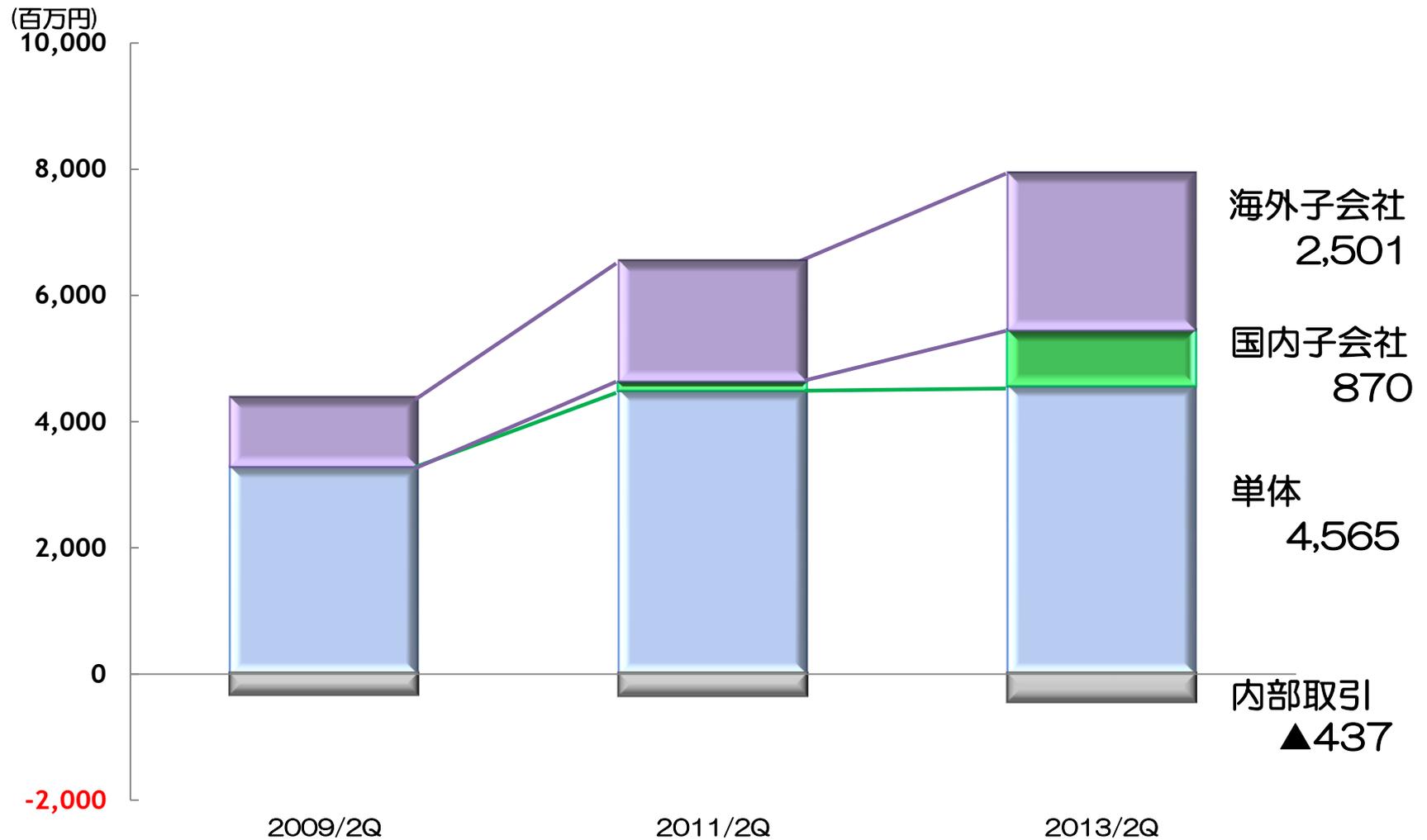
輸出入通関

赤字：当社の主たるビジネス(海上輸出混載)

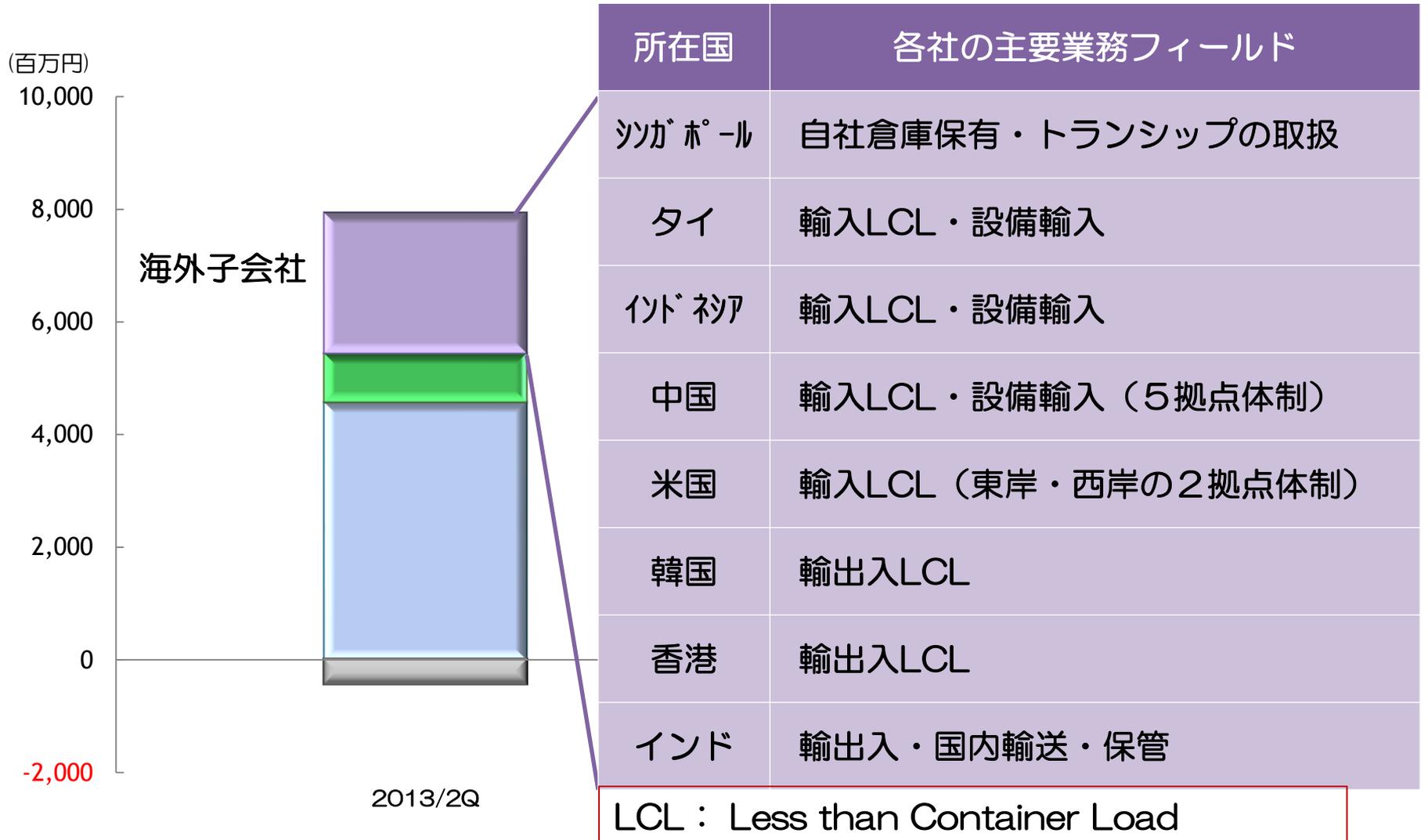
青字：当社グループ内での取扱ビジネス

NVOCC : Non-Vessel Operating Common Carrier

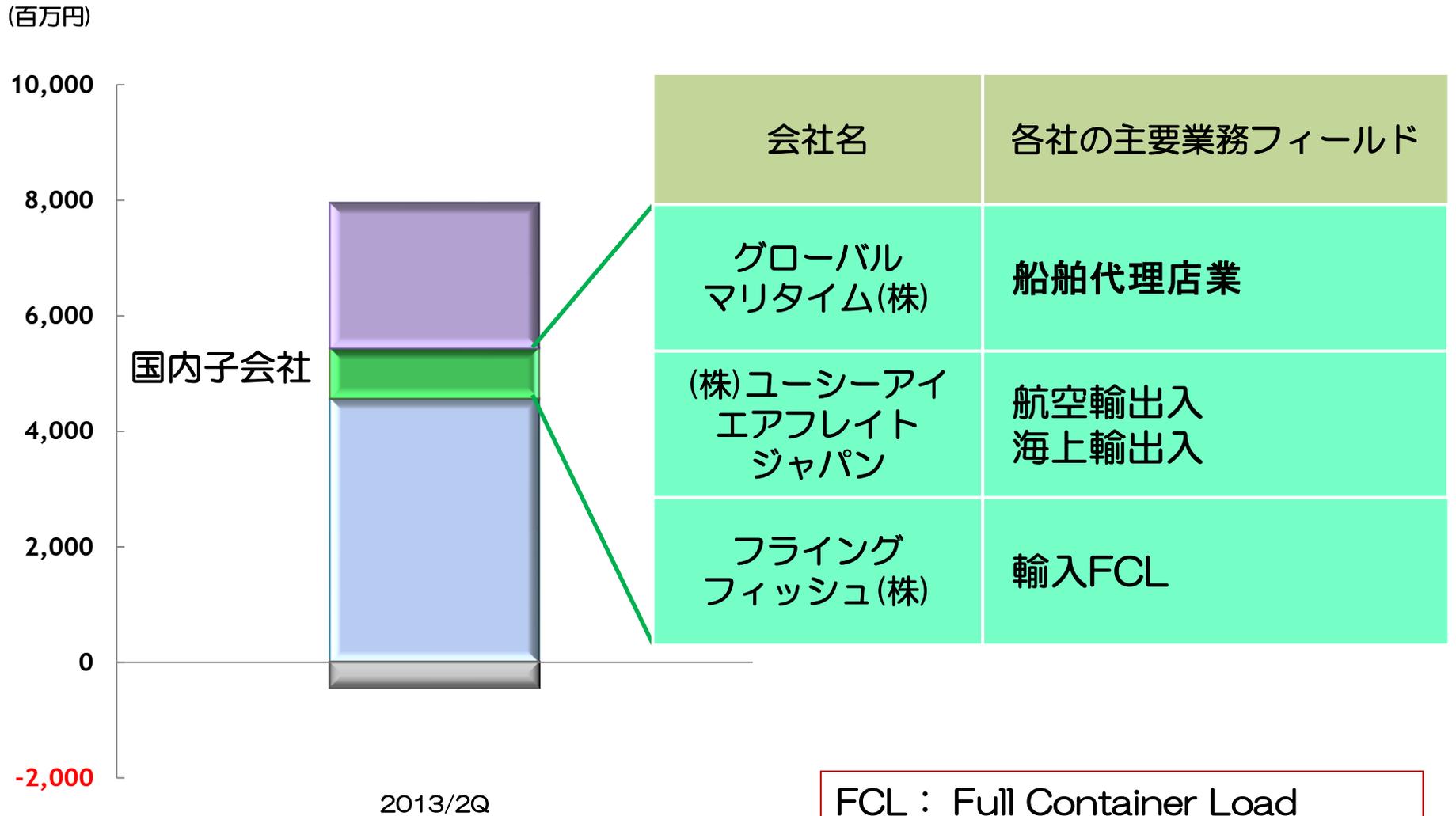
◆ 当社グループセグメント別売上の推移



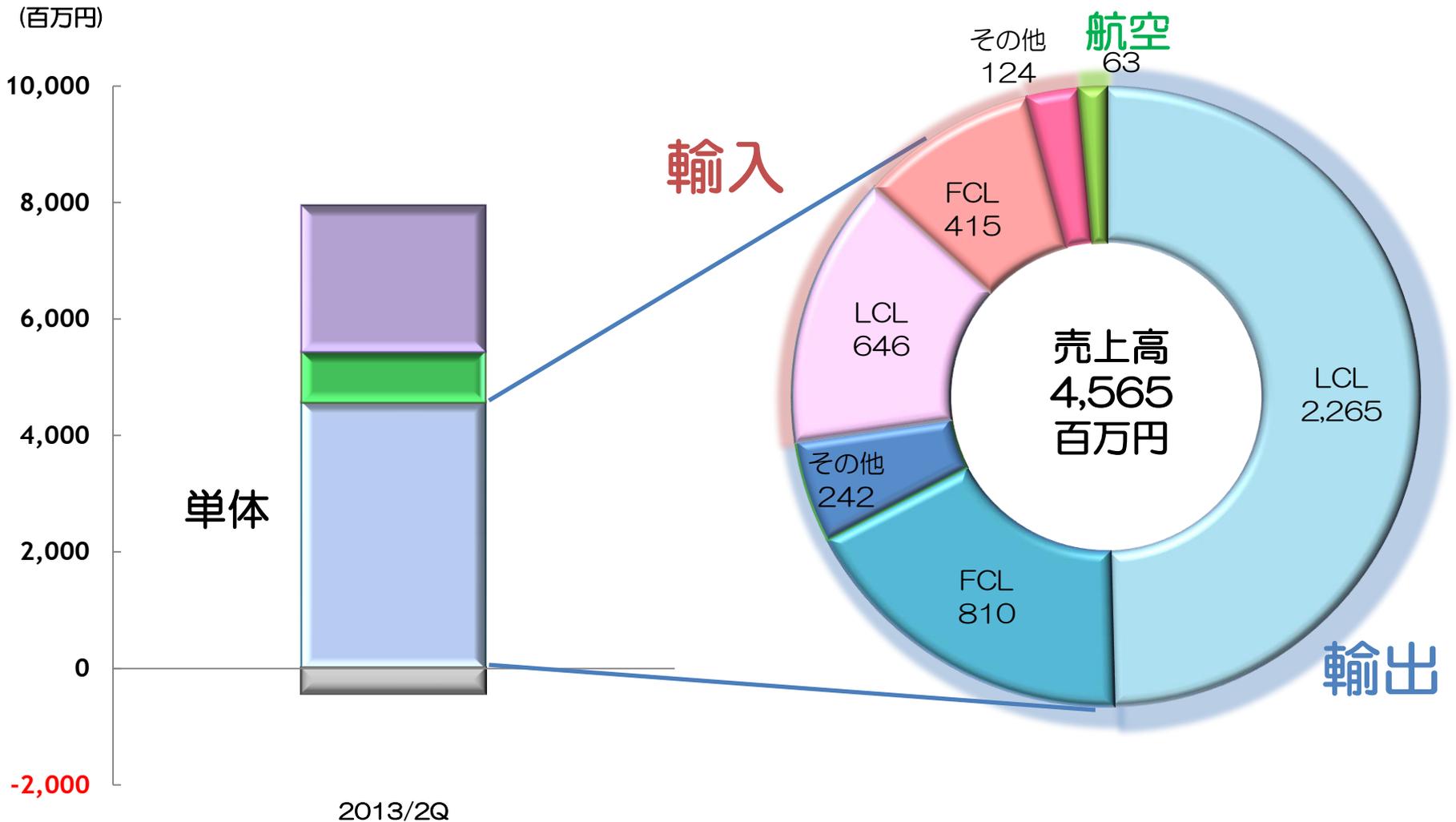
◆ 海外子会社の業務フィールド



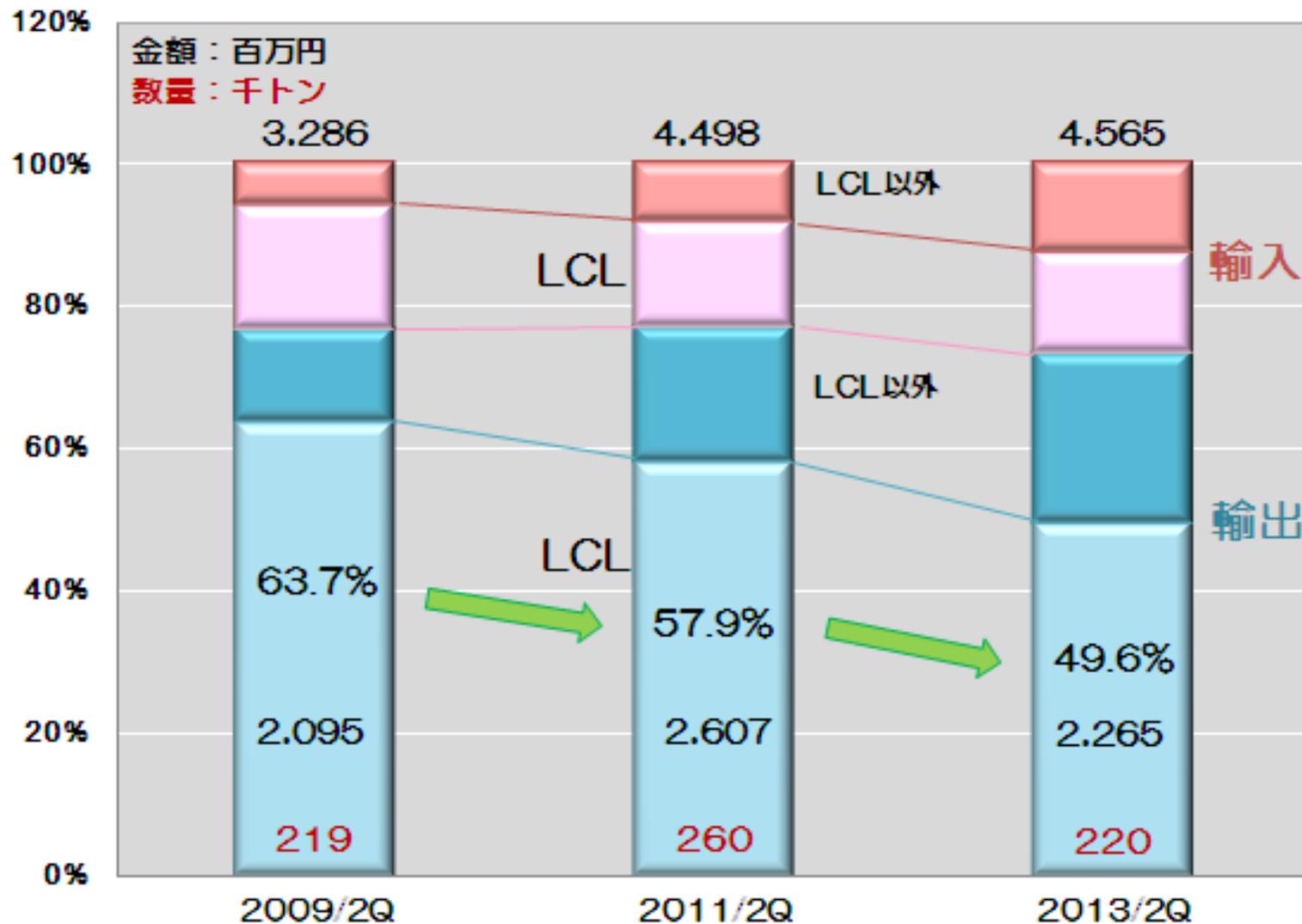
◆ 国内子会社の業務フィールド



◆ 単体の業務フィールドと売上内訳



◆ 単体の売上内訳推移



◆ 輸出混載貨物の収益性

粗利率の比較		運賃関連	倉庫港湾	その他
LCL	39%	43%	30%	55%
FCL	15%	20%	2%	21%

売上内訳（単位：百万円）		運賃関連	倉庫港湾	その他
LCL	2,265	42%	45%	13%
FCL	810	63%	31%	7%

粗利内訳（単位：百万円）		運賃関連	倉庫港湾	その他
LCL	878	46%	35%	18%
FCL	119	86%	4%	9%

(2013年1月～6月実績)

2. 業績概況



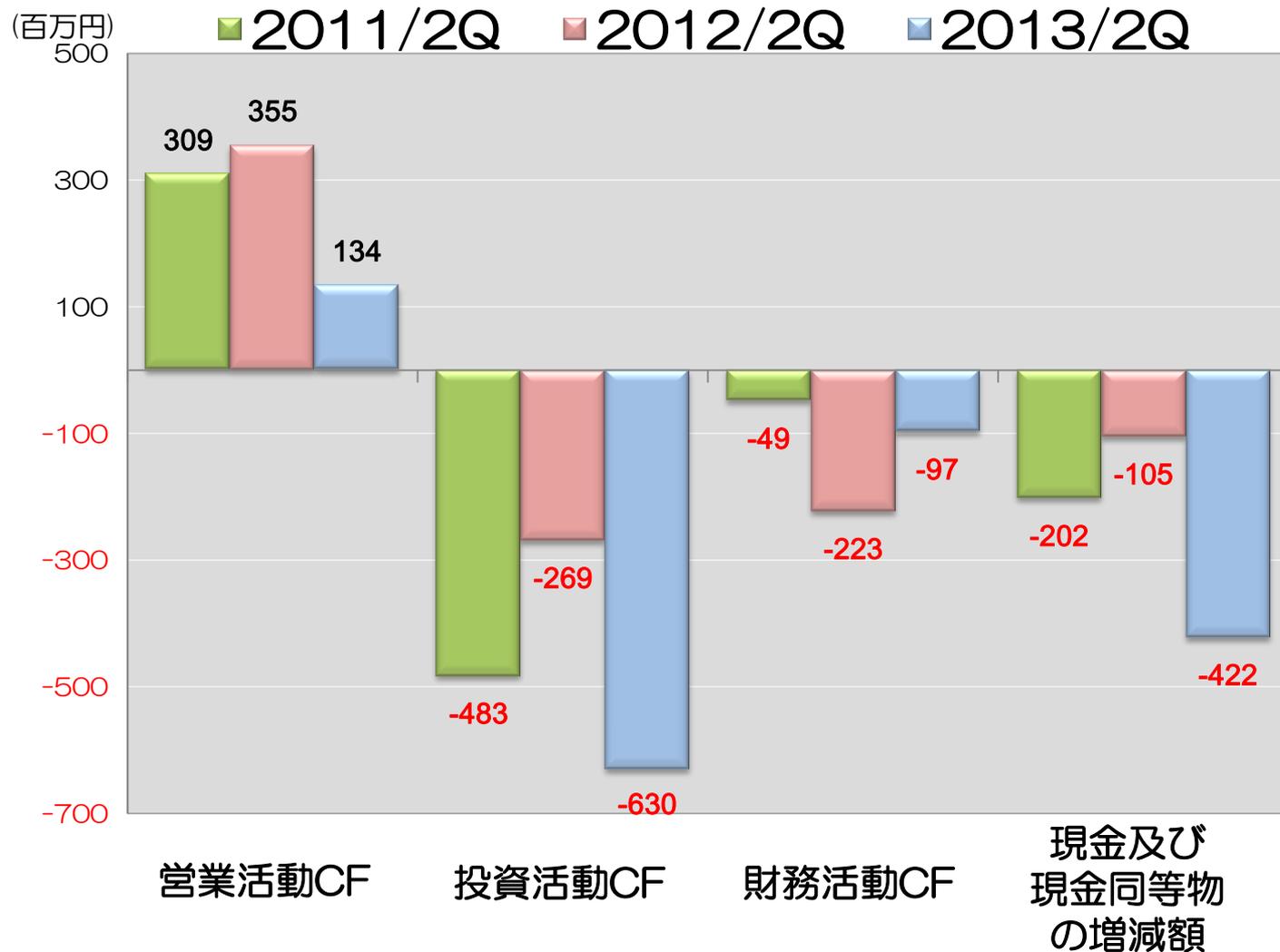
◆ 第2四半期連結決算の業績概要

単位:百万円	2013/2Q	2012/2Q	対前年 増減額	2013/2Q	対計画 乖離額
	実績	実績		計画	
売上高	7,500	6,485	1,015	7,200	300
営業利益	470	483	-13	570	-100
経常利益	510	521	-11	560	-50
当期純利益	308	314	-6	330	-22
USD/円	95.73	79.77	15.96	85.00	10.73

* 円安効果・事業譲受等もあり、売上においては増収かつ期初計画を達成。

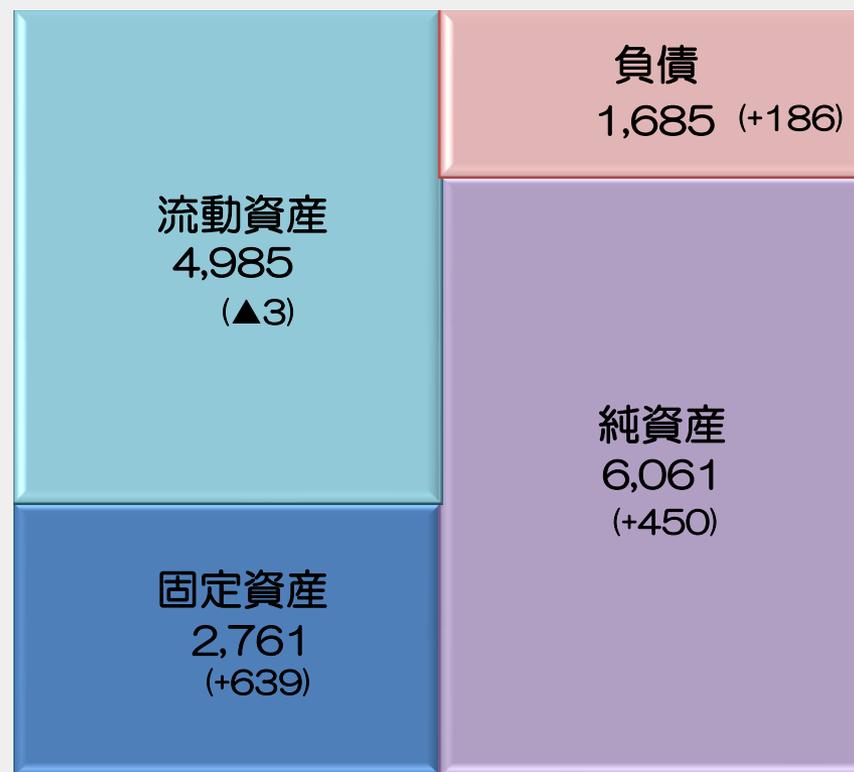
* 利益面では、原価と販売管理費の増加により、減収かつ期初計画未達となった。

◆ 連結キャッシュ・フロー



◆ 連結貸借対照表

総資産 7,746百万円 (+ 637)



単位:百万円 ()内は前期末比増減

《主な変動要因》

流動資産

- ・ 現金及び預金 ▲423
- ・ 受取手形及び売掛金 +253
- ・ その他 +161

固定資産

- ・ のれん +656

《主な変動要因》

負債

- ・ 買掛金 +65
- ・ その他 +110

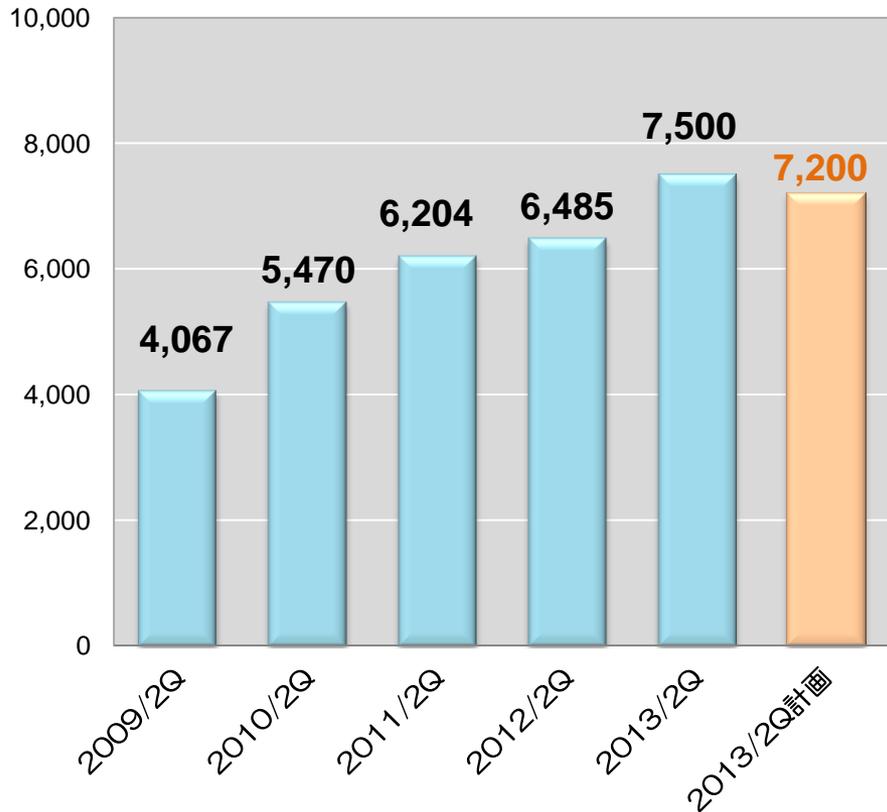
純資産

- ・ 利益剰余金 +229
- ・ 為替換算調整勘定 +179

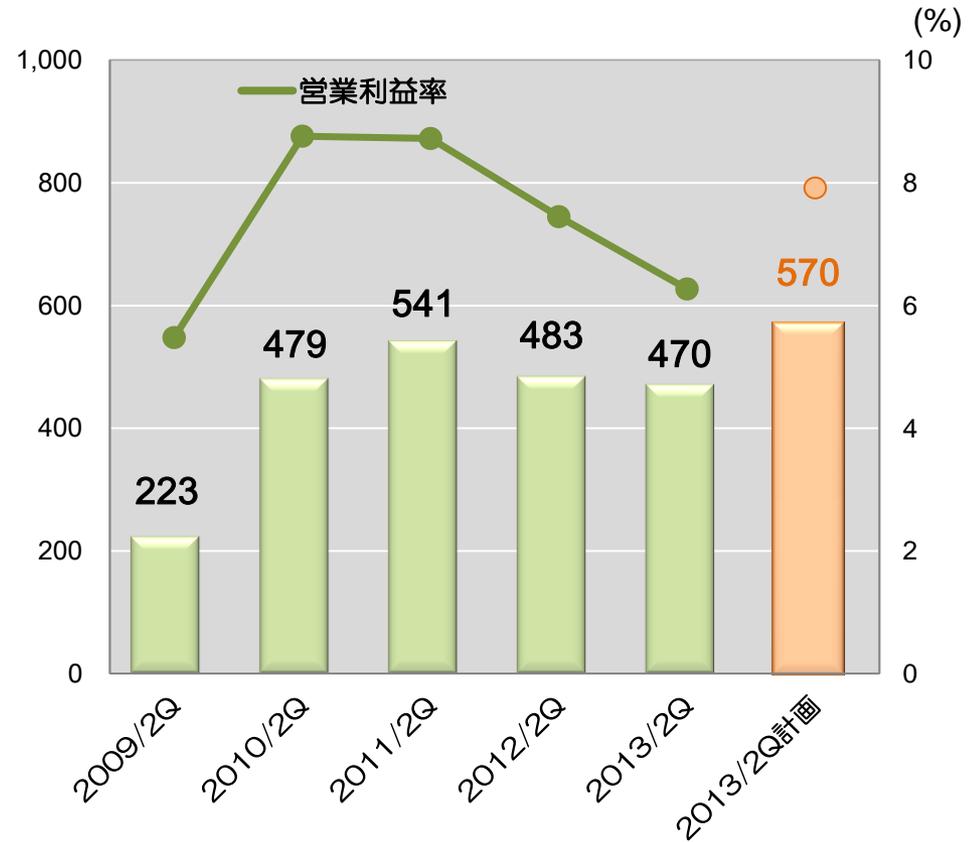
◆ 連結売上高と営業利益の推移

売上高

(百万円)



営業利益



3. 通期計画



◆ 2013年下期の事業環境認識

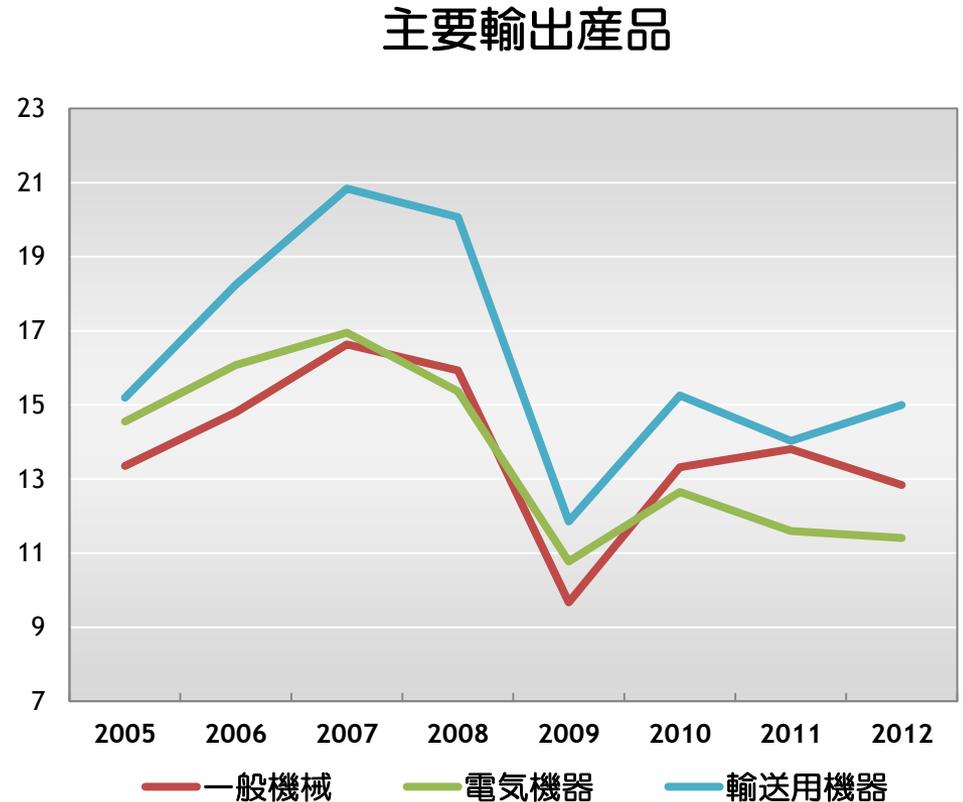
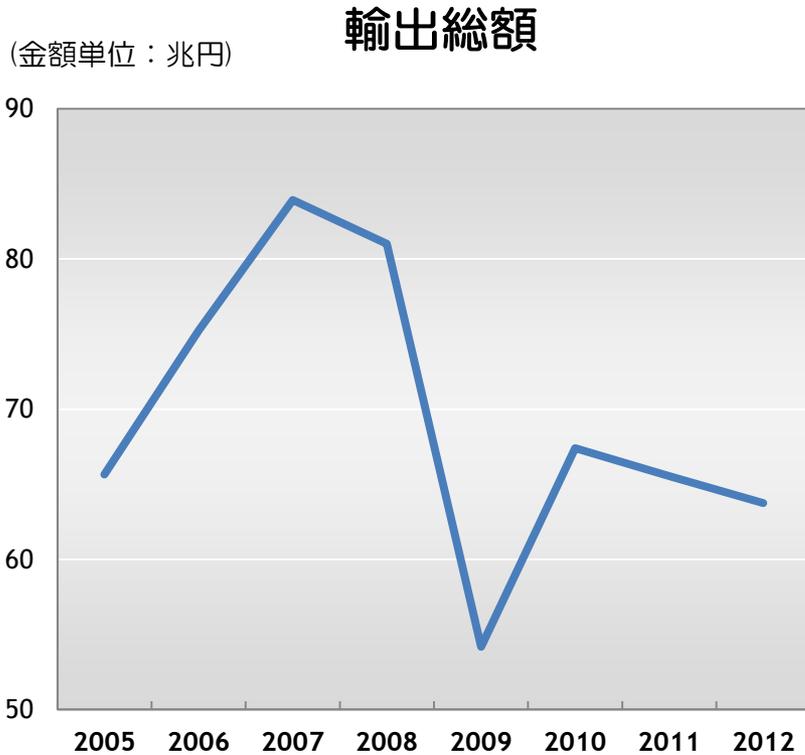
国内

- ・ 円安効果の浸透による輸出数量の増加（輸出増要因）
- ・ 海外生産拡大に伴う円安効果希薄化（輸出減要因）
- ・ 資産効果や賃金増加による内需拡大の期待（輸入増要因）
- ・ 第一次製品の価格上昇による消費マインド低下（輸入減要因）

海外

- ・ 中国における景気減速感の懸念
- ・ アジア諸国は総じて消費・投資需要が底堅く推移
- ・ 欧州の景気回復には時間かかるが最悪期は脱出
- ・ 米国景気動向の回復基調はさらに鮮明になる

◆ 事業環境 (全国輸出の状況-1)



出典：財務省 「貿易統計」

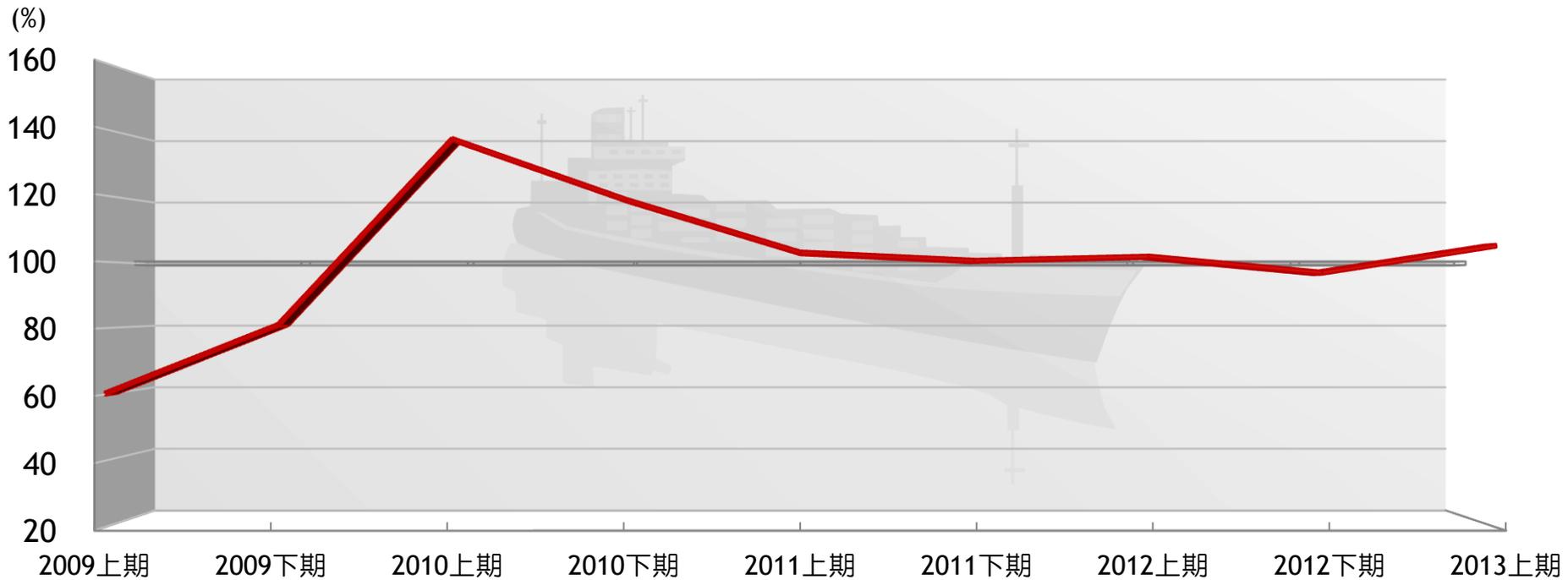
◆ 事業環境 (全国輸出の状況-2)

	2000	シェア	2005	シェア	2010	シェア	2012	シェア
1位	自動車	13.4	自動車	15.1	自動車	13.6	自動車	14.5
2位	半導体 電子部品	8.9	半導体 電子部品	6.7	半導体 電子部品	6.2	鉄鋼	5.5
3位	事務用機器	6.0	鉄鋼	4.6	鉄鋼	5.5	半導体 電子部品	5.2
4位	科学 光学機器	5.1	自動車部品	4.3	自動車部品	4.6	自動車部品	5.0
5位	自動車部品	3.6	科学 光学機器	3.8	プラス チック	3.5	原動機	3.5

出典：財務省 「貿易統計」

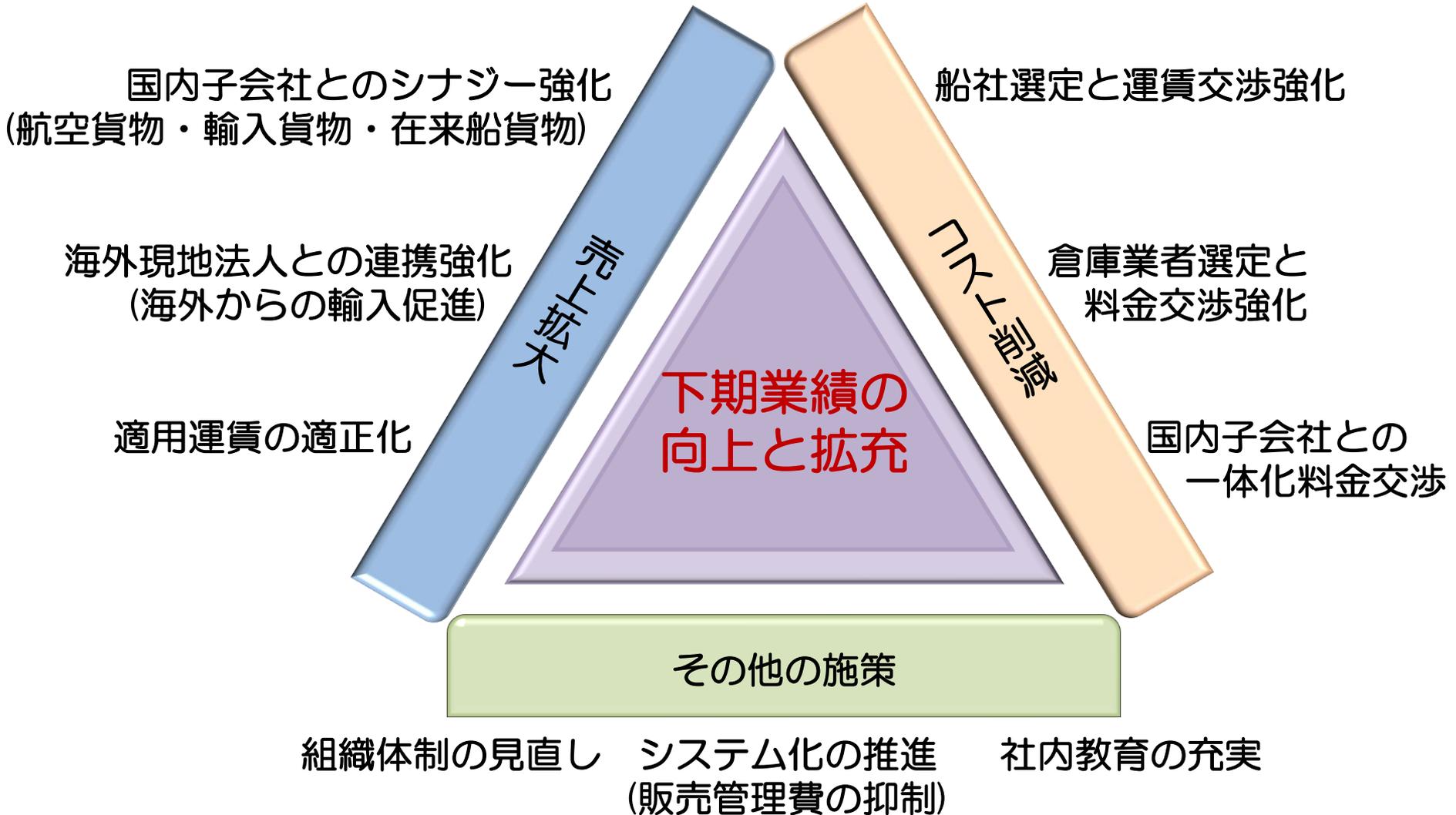
◆ 事業環境(全国海上コンテナ輸出の伸長動向)

全国海上コンテナ（対前年同月比伸び率）



出典：財務省「貿易統計」

◆ 下期業績の向上と拡充のための運営施策



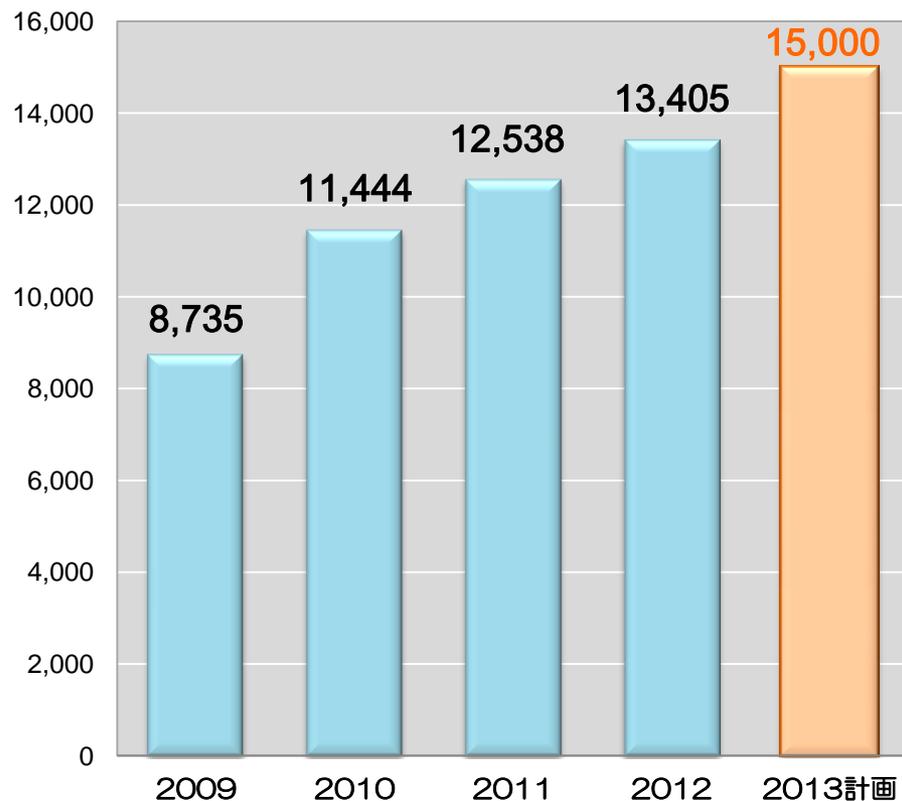
◆ 通期事業計画

単位:百万円	2013	2012	前期比	
	計画	実績	増減金額	増減率
売上高	15,000	13,405	1,595	11.9
営業利益	1,300	908	392	43.1
経常利益	1,300	975	325	33.3
当期純利益	800	459	341	74.3

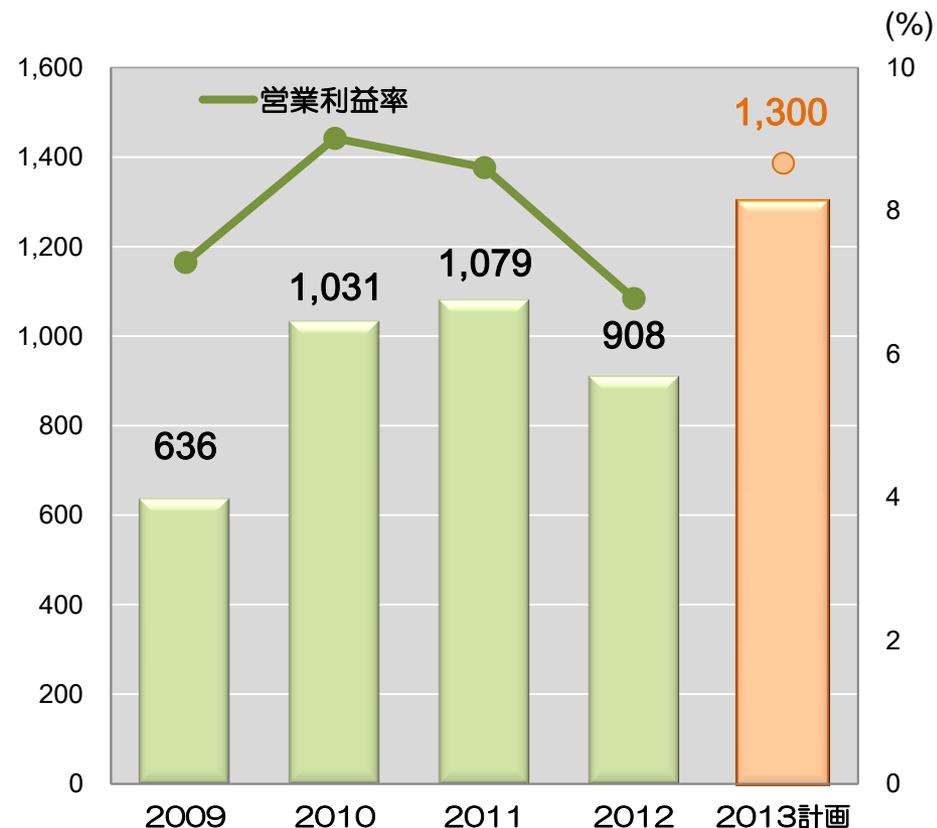
◆通期連結売上高と営業利益の実績と計画

売上高

(百万円)



営業利益



4. 経営展望



◆ 経営展望 フライングフィッシュ株式会社

概要

- ・ 2013年6月1日事業譲受
- ・ 輸入を中心とした複合一貫輸送業
- ・ 大手得意先との取引を核にきめ細かいサービスで定評を得ている

当面の 運営方針

- ・ 事業運営を着実にスタートさせ、事業基盤を早期に整備し確立する
- ・ 同社の事業ノウハウを、当社グループ全体で吸収し、さらに拡大活用する

長期的展望

- ・ 当社グループがめざす国際総合フレイトフォワードの一翼を担いつつ、長期的にはグループ全体の中核事業会社として育成する

◆ 経営展望 株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパン

概要

- ・ 2012年4月株式取得
- ・ 航空中心、海上にも強みの国際貨物輸送事業
- ・ 当社グループ初の航空貨物輸送への本格的進出

実績

- ・ 2012年10月に成田空港内に事業所を開設し、航空事業をさらに拡大
- ・ 売上高は前年比27%（2Q比較）増加

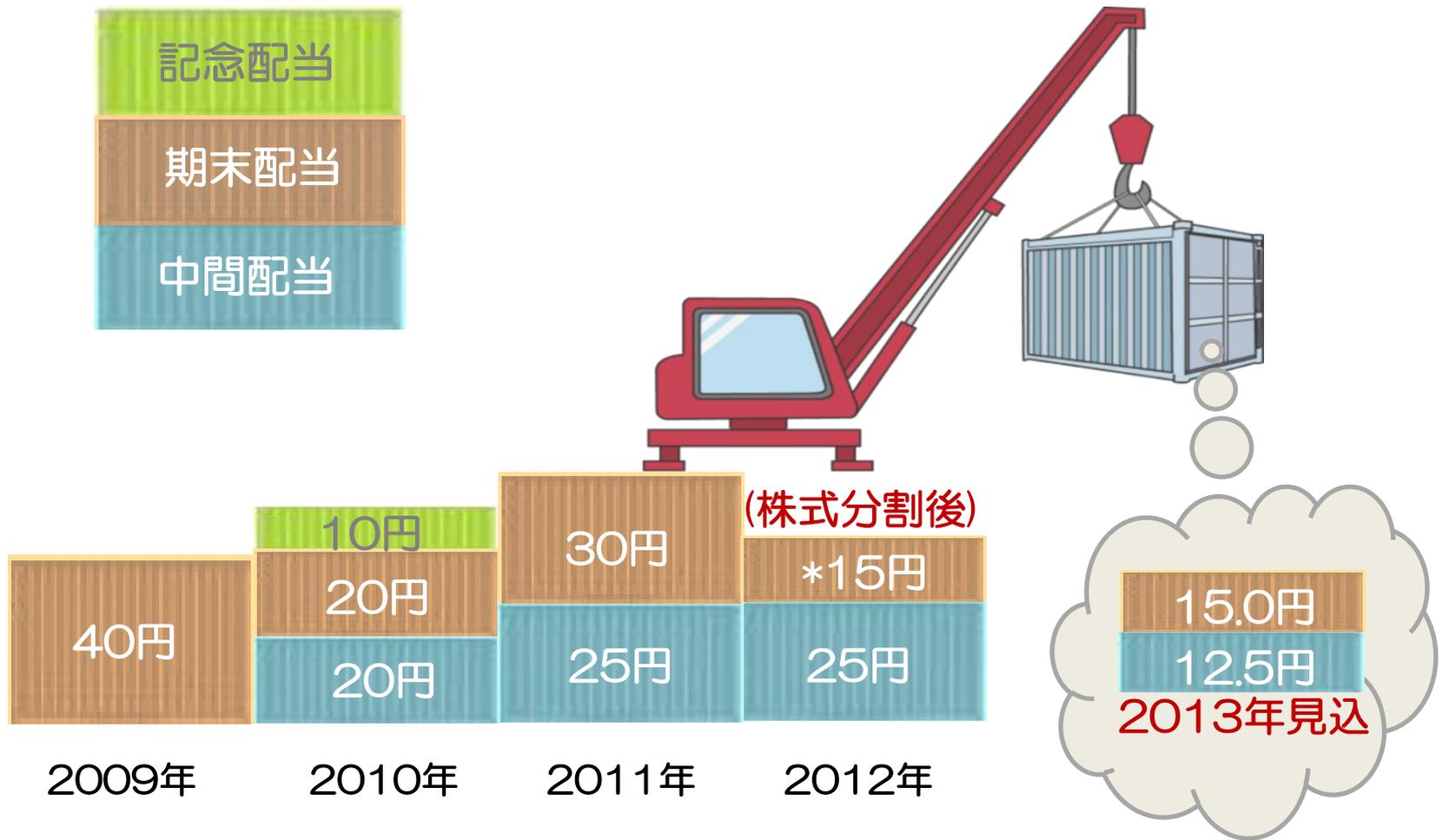
展望

- ・ 統合一年を経過し、グループ各社との連携強化を進めてビジネスチャンスを拡大し、着実に業績向上をめざす

◆中期経営計画 最終数値目標

単位：百万円	中期経営計画 数値目標	今期の通期計画
連結売上高	18,000	15,000
連結営業利益	1,800	1,300
連結当期純利益	1,080	800

◆ 配当方針



ご清聴ありがとうございました



内外トランスライン株式会社
NAIGAI TRANS LINES

取締役経営企画部長 三根 英樹

TEL 06-6260-4800

FAX 06-6260-4719

URL <http://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。